

# スポーツ審議会 健康スポーツ部会 第4期基本計画の作成にあたり

2025年12月18日

笹川スポーツ財団 渡邊一利

## Sport for Everyone社会

日本に暮らす一人ひとりが、自分の志向やライフスタイルにあったスポーツ活動  
(する・みる・ささえる) を楽しみ、そこに幸福を見出す社会

### 調査・研究 (Think Tank)

#### 科学的な研究

国内外のスポーツに関する情報収集および調査分析を行い、科学的に研究する機関として重要な位置を占める

#### 多様な社会的価値を追求

スポーツの持つ多様な社会的価値を追求するとともに、先進的な知見の普及および情報共有の拠点となる

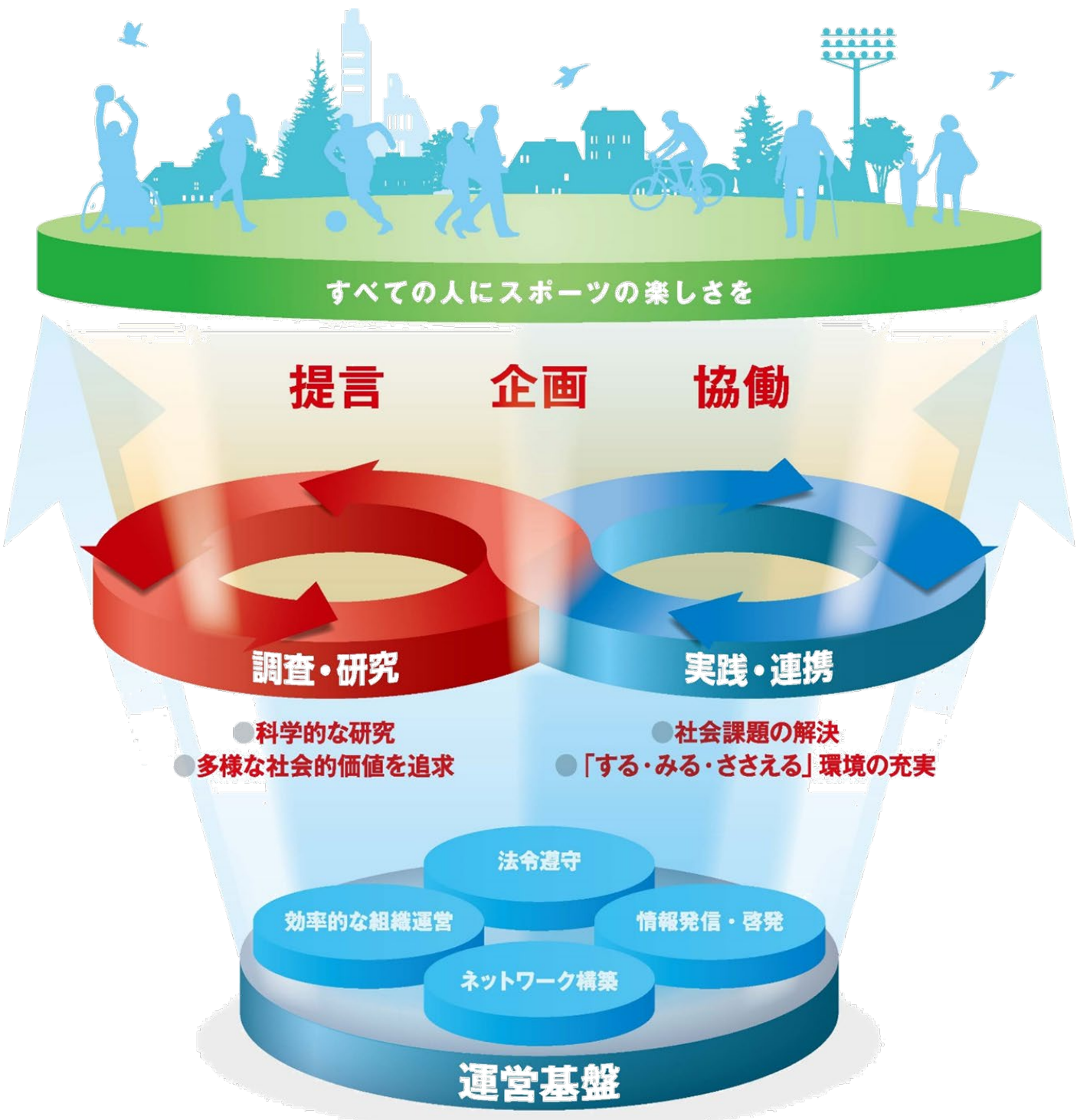
### 実践・連携 (Do Tank)

#### 社会課題の解決

社会課題の解決にスポーツの価値が活かされるモデルを開発し提供するとともに、協働・実践の中核となる

#### 「する」「みる」「ささえる」環境の充実

スポーツ振興を目的とする諸機関と連携して、スポーツを「する」「みる」「ささえる」環境の充実に図る推進役となる



# 健康スポーツ部会の役割と成果

## □ 健康スポーツ部会の所掌事務

- ⇒ スポーツ実施率の飛躍的向上に向けた方策について調査審議すること
- ⇒ スポーツを通じた健康増進や共生社会等に向けた方策について調査審議すること

## □ 健康スポーツ部会のアウトプット

- ⇒ スポーツ実施率向上のための行動計画 (2018.9)
  - ⇒ スポーツ実施率向上のための中長期的な施策 (2019.8)
  - ⇒ ライフパフォーマンスの向上に向けた目的を持った運動・スポーツの推進について (2023.8)
  - ⇒ Sport in Life ガイドブック (2024.3)
- ～スポーツによる健康増進とライフパフォーマンスの向上を目指して～

## □ スポーツ実施率

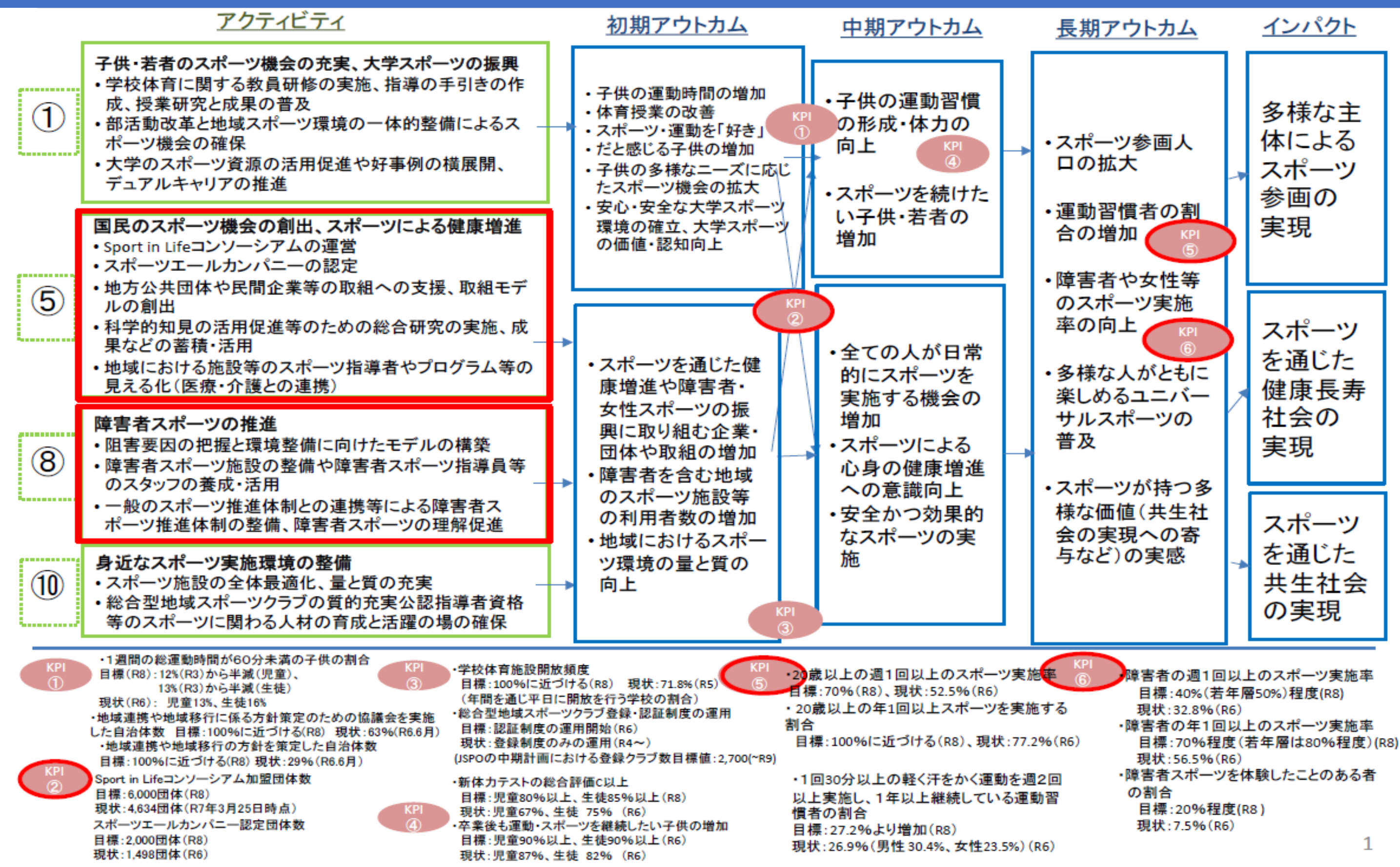
- ⇒ 第2期スポーツ基本計画 (2017～2021) 目標：65% ⇔ 2021：56.4%
- ⇒ 第3期スポーツ基本計画 (2022～2026) 目標：70% ⇔ 2024：52.5%
- ⇒ 調査対象(N)の変更      ～2021：20,000      2022～:40,000



第3期基本計画

中間評価

多様な主体によるスポーツ参画の実現



### □ KPIを実現するためのアクティビティの実行性と実効性は？

⇒ 20歳以上の週1回以上のスポーツ実施率 （目標70%、R6・52.5%）

⇒ 1回30分以上・軽く汗をかく運動・週2回以上・1年以上継続の運動習慣者  
（目標27.2%以上、R6・26.9%）

(1) これまでの個々のアクティビティを再検証する必要があるのでは？

(2) 地域環境・実態把握するため、世論調査と全国各自治体の既存データを比較してみては？

⇒ 基本計画が参酌されているか？政策メッセージが全国に各地に理解・実行されているか？

### □ KPIとインパクトの因果関係が具体的に明示され、かつ、周知啓発されているか？

⇒ スポーツ実施率の向上・運動習慣者の拡大 ➡ 健康の保持増進・健康寿命の延伸

⇒ これまで得られた科学的根拠が、誰でもわかる形で整理・明示されているか？

⇒ その他の指標は必要ないか？ 身体活動における生活活動をどう位置付けるか？

⇒ Sport in Life コンソーシアム、スポーツエールカンパニーに期待される役割とは？

⇒ 加盟・認定団体数だけでなく、期待・成果など「質的指標」の設定が必要では？



## 第4期計画に向けて② 地理的アプローチの必要性

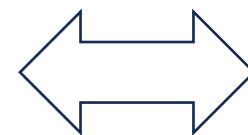
- ❑ 多様な主体をセグメント別に議論してきたが、地理的な視点・アプローチも必要ではないか？
    - ⇒ これまで子ども、女性、働く世代、子育て世代、高齢者、障害者などへのアプローチの議論
    - ⇒ 実効性を考えれば、国、地方自治体、スポーツ団体などの活動主体の連携協力が必須
    - ⇒ 個々の「点」の活動を、協働の「線」に、そして産官学民（金言士）による「面」の活動に
      - 「スポーツ健康まちづくり」を推進するエンジン（プラットフォーム）の構築支援
      - スポーツの価値を市民が享受するためのアプローチ
        - ①基礎自治体（約1700）      ③中学校区
        - ②旧基礎自治体（約3300）      ④小学校区      ⑤自治会（町内会）
  - ❑ 先行研究、成功事例の要因を分析し、公募事業として複数年度の助成事業を展開しては？
    - ⇒ Smart Wellness City      SWC首長研究会（133区市町村）
    - ⇒ SSF Active City      （3市）
- ➡ 司令塔であるスポーツ庁だからできる事業展開のダイナミズムを熟慮断行しては如何か？

## 第4期計画に向けて③ オールジャパンでの取り組み・推進

- 主体である国、地方自治体、統括組織、NFほか、全ての関連組織が中央レベル、地方レベルでタテ、ヨコ、ナナメの連携協力をさらに推進すべきでは？
- ⇒ スポーツ推進会議（中央）での議論（情報共有に留まらず）を、確実に地方レベルに届ける
- ⇒ スポーツ庁、厚生労働省によるKPI設定議論（目指すインパクトは同じでは？）
- ⇒ そのうえで、国土交通省、経済産業省、総務省等との協力連携を具体的にすべきでは？
- ⇒ 地方のスポーツ推進では、現役の地域資源だけではなく、潜在する遊休資源も活用
  - 地方に住む元スポーツ選手等、影響力があり市民との触れ合い機会がの少ない地域資源
- ⇒ 中央と地方が常に情報共有を行うとともに、地方の各種事業を情報・知識・知恵と資金で支援

スポーツ推進会議（省庁間）

スポーツ政策円卓会議（統括団体）



地方自治体

地方関係部署

地方スポーツ関係組織・者

一方で、現行の体制、実施内容等を検証するタイミングかも知れない？

変化の激しい時代、課題が山積する時代、実効性ある政策が求められるのでは？

## ■ アクティブシティ推進事業(2024年度～)

SSFが市区町村と協働し、運動・スポーツを通じた住民の心身の健康づくりと、スポーツの多様な価値を活用した地域の課題解決を推進する先進自治体「アクティブシティ(AC)」を創出する取り組み

### 【アクティブシティとは？】

スポーツ・運動、健康づくり、まちづくりに関わる組織や人々が協働し、住民一人ひとりのウェルビーイングの向上を目指すとともに、スポーツの多様な価値を活用して地域の課題解決に取り組むまち

自治体(市区町村)

ニーズに合う  
プログラムを  
選んで参加

### (1)アクティブシティ推進 プラットフォーム

スポーツ推進と地域課題の解決に取り組む  
分野横断・官民連携のプラットフォーム

### (2)アクティブシティ フェロー育成

スポーツによるまちづくりを担う  
地域の人材を育成

### (3)SSFアクティブチャレンジ

運動・スポーツの習慣化とスポーツによる地域の課題解決に取り組む住民総参加イベント  
アクティブシティ推進自治体の発掘の場

スポーツによる  
アクティブシティの実現